

高知県スポーツ振興県民会議 渋谷アドバイザーからの意見

1. 令和2年度スポーツ施策の進捗状況について

■地域のスポーツ振興

- 地域スポーツハブで行ってきた良い事例を、他の市町村に関心を持ってもらうようにすることが大事。
- 地域スポーツハブの未設置地域において、市町村などが中心となって組織横断的な体制で取り組み、結果的に地域スポーツハブに育っていくような支援を検討してみてもどうか。

■地域スポーツハブの評価

- 課題は、スポーツにダイレクトに関わる課題と、スポーツの関わりは少ないが、地域の課題に関わるものがあると思う。地域の課題に貢献できているかが、求められ過ぎないようにしないといけない。
- 関係者でビジョンの共有がどれくらいできているかは評価の項目に入れてほしい。

2. 今後のスポーツ施策の更なる強化の方向性について

■コロナウイルス感染症関連

- 感染者が出ることを意識しすぎて何もしないということではなく、しっかりと安全対策をしたうえで事業を行うということ、比較的感染リスクの少ない事業などで打ち出していくことが大事ではないか。
- 既に開催されたイベントや大会の感染予防の取り組みや運営体制を確認してみてもどうか。

■子供のスポーツ環境

- 子供のスポーツ環境について、新たなチームや組織を立ち上げることは難しいかもしれないが、地域で既に活動している場から生み出すことはできるかもしれない。(大人が集まる場で、定期的に地域の子どもが活動できる機会をつくるなど)
- 地域スポーツハブの未設置地域では、取り組み可能な地域からモデル的に進めることで空白を埋めていってはどうか。

■運動部活動

- 全国的に外部指導員の情報は、メディアなどであまり出てきていない。これが部活動外部指導員の姿だといったものがあれば、クローズアップして紹介してもいいのではないか。

■運動習慣

- 行政でできることには限りがあるので、民間にまかせることと公共が行うことの線引きをどのように考えるかが必要ではないか。

■障害者スポーツ

- 障害者だけに限らず、障害のある方も無い方も一緒にできるということを強めに打ち出してはどうか。それが高齢者のスポーツ参加にもつながるケースがあるのではないか。
- 障害の有無に関わらず、誰もが空間を共有できる場が必要。その場にスポーツ用具を備えておくと、自然に活動が始まるケースもある。県の福祉施設や病院などでそういった場をつくることを仕掛けてみてもいいのではないか。
- 障害者スポーツの大会誘致は、円滑な運営や宿泊施設の確保などから難易度が高く、まず、地域で障害福祉を実際に行っている方が乗り気になってもらうことが必要。